



簡単な調理や食事が行える
 コモンキッチンには本棚を
 設置。ルーフトラスと一体
 となった空間で、オーニング
 (日よけ)を備えた屋外空間
 でも過ごせる。ルーフトラ
 スには家庭菜園ができる花
 壇を設けている。

SHIMOKITA COLLEGE
 の外観を別の角度から。
 水平方向の直線を強調し
 たデザインになっている。



エレベーターホール兼コモン
 キッチンスペース。簡単な調
 理が行えるキッチンを備え、冷
 蔵庫や電子レンジ等の家電を
 用意。食事や雑談等からコミュ
 ニケーションが生まれるスペ
 スとして計画。



ライブラリースペース。履き物を脱ぎ、座って読書や会話を楽しむ
 ことができる。



建物の外観。1階食堂部分はガラ
 ス張りとなっており、外からも様
 子が窺え、地域へ開かれたコンセ
 プトを体现している。



同フロア内にあるランドリーの待合と
 一体的に利用できるリビングスペ
 ス。暖炉と本棚、ラグを設え、ソファ
 やリクライニングチェアを設置。自宅
 のリビングのように落ち着いてくつろ
 げる空間とした。



SHIMOKITA COLLEGE 建設の背景、目的

SHIMOKITA COLLEGEは「暮らし
 ながら学ぶ」新たな教育施設として東京・下北沢地域に開業した。小田急電
 鉄株式会社、UDS株式会社、HLABと
 の三社協働によるプロジェクトである。

近年、MOOCの普及で授業コンテ
 ンツへのアクセスが容易になったこと
 で、授業コンテンツではなく多様な人
 との密な交流の価値が目目されている。
 世界のトップスクールでは寮生活
 の中での学び合いをより重視する傾
 向にある。

そうした世界的な動きを背景に、
 SHIMOKITA COLLEGEは、多様
 な経験や価値観を持つ居住者が寝食
 を共にするなかでお互いから学び合
 う場を日本でも実現するべく企画さ

れた。特に、教育機関やビジネスの中
 心が集中する東京の地の利を生かし、
 特定の大学に紐づく形ではなく、多世
 代・多様な立場の入居者が集うかたち
 での学びのコミュニティー構成を目指
 している。また、下北沢というまちを
 キャンパスに見立て、地域の課題解決
 をプロジェクト化してまちの方々と取
 り組みながら、まちの活性化に寄与し
 て行く。

2020年12月の開業後、海外の大学
 に在籍しながらもコロナ禍で現地に渡
 航できず、オンライン授業を受けてい
 る学生も含めて、世界4カ国20大学の
 学生と若手社会人がトライアル入居
 を経て、高校生の入居者も迎え入れ、最
 終的には120名程度が居住し学び合う
 環境を整える予定だ。

建築物の設計コンセプト

建物を通して、偶発的な交流を生む
 空間作りを重視している。食堂やラ
 ンジ等の共有スペースは各フロアの居
 室への動線上に配置。さらにランドリ
 ールームやライブラリー等機能の異な
 る共用スペースを各フロアに分散させ
 ることで、交流が生まれやすい空間づ
 くりをしている。

また、居住空間では、設計を担当し
 たUDSがホテルやシェアハウス事業
 で培ったデザイン手法やノウハウを活
 かし、限られたスペースを最大限に活
 用して快適さも追求、学びに集中でき
 る環境を整えている。

SHIMOKITA COLLEGE において 実現する具体的な取り組み

SHIMOKITA COLLEGEでは、国

内外の大学でのカレッジ制度を参考
 にHLABが構築した「HLABカレ
 ジ・レジデンシャル・プログラム」を導
 入している。共同生活の中で主体的
 なリーダーシップを育みながら、多
 様な他者との交流の中で身近なロー
 ルモデルと出会うことを通してキャ
 リア発達を支援することを目指す。

SHIMOKITA COLLEGEの学びの
 特徴は、交流と学び合いを生む仕組み、
 教育プログラムとしての共同生活、地
 域と連携し新たな価値を共創するプロ
 ジェクトだ。

まず、「交流や学び合いが自然に生ま
 れる文化」を育むために、前述した空間
 設計のほか、小グループで定期的に振
 り返しを行うハウスリフレクションや、
 キャリアや研究について身近なロー
 ルモデルに相談ができるフェロー制度な

どの仕組みを展開している。

また、共同生活の中で学びの機会を
 作るために、定期開催するワークショ
 ップや、カレッジのルール決めや運営
 に当たる委員会活動、互いの専門領域
 を教え合う「リベラルアーツ・セミナー」
 などを企画し、共同生活を通して居住
 者が互いの関心事や専門性から学び合
 う教育プログラムを構成している。

さらに、下北沢地域と連携し、地域
 の課題を題材としたプロジェクトを実
 践しながら学ぶ「シモキタ・イマーシブ」
 を企画している。居住者にとっての学
 びの機会になるだけではなく周辺地域
 に貢献し、コミュニティの一員となるこ
 とを目指す。

入居者からは、「コロナ禍で登校で
 きないなか、初めて深い交流ができた」
 「普段の大学生活では出会えない人と

出会えた」といった声が上がっている。
 また、周辺地域の方々には、新しくでき
 た施設として関心を持っていただき、
 現在どのような連携ができるか関係構
 築の真っ最中だ。

今後の新たな利活用についての プラン、展望等

今後は、周辺地域や、さらに一般企
 業との連携を深めながら、より実践的
 な学びの機会を創出していく。また、
 居住者の学業、キャリア発達を支援す
 るためにカレッジを中心としたコミュ
 ニティーのメンバーを拡充し、よりロー
 ルモデルの発見やサポートが得られや
 すい環境構築を進める。今後高校生
 の入居開始により多世代での学びの場
 にしていくほか、他地域での展開も見据
 えている。

文/河合道雄 (HLAB)